

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 56107338
PUBLICATION DATE : 26-08-81

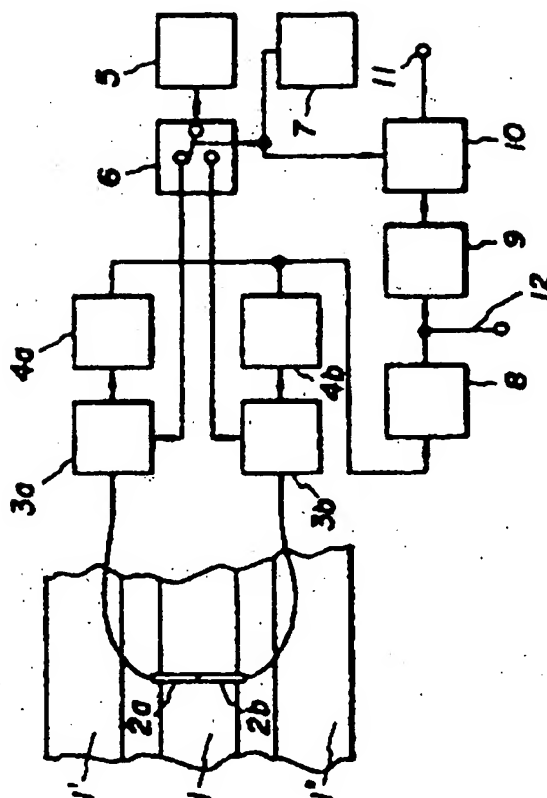
APPLICATION DATE : 29-01-80
APPLICATION NUMBER : 55008340

APPLICANT : HITACHI LTD;

INVENTOR : YAMASHITA KYO;

INT.CL. : G11B 11/00 G11B 21/10

TITLE : DETECTOR FOR TRACKING ERROR



ABSTRACT : **PURPOSE:** To simplify the constitution of pickup part, to play back the video signal with high quality, and to ensure to detect the tracking error signal, by making the pickup of signal from two electrodes in time sharing mode.

CONSTITUTION: Electrodes 2a, 2b have static capacity with the conductive layer forming the recording track 1, and this static capacity forms a part of resonators 3a, 3b. Thus, when a high-frequency exciting voltage from the oscillator 5 is fed to each resonator 3 via a switching circuit 6, AM modulation in response to the recording signal of track 1 is made, amplitude variance is picked up at envelope detectors 4a, 4b and recorded FM modulation signal is obtained. This signal is amplified 8 and TV signal is fed to the terminal 12, and a signal in proportion to the amplitude is detected at an envelope detector 9 and fed to the synchronizing detector 10, to obtain tracking error signal at the terminal 11.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭56—107338

① Int. Cl.³
G 11 B 11/00
21/10

識別記号

庁内整理番号
7426—5D
7168—5D

③ 公開 昭和56年(1981)8月26日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

② トラッキング誤差検出装置

① 特 願 昭55—8340

② 出 願 昭55(1980)1月29日

③ 発 明 者 藤島徹
横浜市戸塚区吉田町292番地株
式会社日立製作所家電研究所内

④ 発 明 者 山下経

横浜市戸塚区吉田町292番地株
式会社日立製作所家電研究所内

⑤ 出 願 人 株式会社日立製作所
東京都千代田区丸の内1丁目5
番1号

⑥ 代 理 人 弁理士 武頭次郎 外1名

明 細 書

1 発明の名称

トラッキング誤差検出装置

2 特許請求の範囲

(1) 記録トラックの軸方向に位置を異にして設けた第1と第2の信号検知用電極を有する録電器録像方式の記録再生装置において、これら第1と第2の電極に結合した共振回路のそれぞれに対する高周波共振電圧を交互に切換えて供給する切換手段と、これら共振回路のそれぞれにより共振変調されて取り出された高周波共振電圧の差を検出する第1と第2の検出手段と、これら第1と第2の検出手段の出力を共通の入力とする1個の増幅手段と、該増幅手段の出力を入力とし前記切換手段に対する切換信号により動作する同期検出手段を有し、該同期検出手段の出力によりトラッキング誤差用の誤差信号を得るように構成したことを特徴とするトラッキング誤差検出装置。

(2) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレーヤーであり、前記

第1と第2の電極により記録トラックから再生した信号に基づいて映像信号を得ると共にトラッキング誤差信号も得るように構成したことを特徴とするトラッキング誤差検出装置。

(3) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレーヤーであり、かつ前記第1と第2の電極から記録トラック上における1水平走査期間に相当する距離だけ離れた位置に第3の信号検知用電極を有し、映像信号の取り出しと分離してトラッキング誤差信号の取り出しが行なわれるように構成したことを特徴とするトラッキング誤差検出装置。

(4) 特許請求の範囲第1項において、前記記録再生装置がビデオディスクプレーヤーであり、かつ前記第1と第2の電極が記録トラック上における1水平走査期間に相当する距離だけ記録トラックの長さ方向に相互に離れて設けられ、これら第1と第2の電極により記録トラックから再生された信号に基づいて映像信号を得ると共にトラッキング誤差信号も得るように構成したことを特徴とす

るトラッキング誤差検出装置。

5 発明の詳細な説明

本発明は、ビデオディスクプレーヤーなどにおけるトラッキング制御用のトラッキング誤差検出装置に関する。

テレビジョン信号などの図像情報を記録し再生するための装置としては、従来ビデオテープレコーダが主として使用されていたが、再生専用のビデオプレーヤーとしては、その取扱いの容易さやプログラムが記録された記録媒体、いわゆるプログラムソフトの経済性などから回転円板にテレビジョン信号を記録し再生するようにした、いわゆるビデオディスクプレーヤーが使用されるようになってきた。

このようなビデオディスクプレーヤーとしては、種々の方式のものが提案されているが、その中の一つに記録すべき信号をビデオディスクの表面に設けた導電層の凹凸変化として記録し、再生時に針電極でトレースしたときに生じるディスクの導電層と電極との間の静電容量の変化として信号を

特開昭56-107338(2)

検知し再生する方式のいわゆる静電容量検出方式のビデオディスクプレーヤーがある。

また、この静電容量検出方式のビデオディスクプレーヤーにおいても、ディスク面の記録トラックに対する針電極のトラッキングを行なうための方法として種々のものが提案されているが、その中で針電極から再生された信号の振幅レベルによりトラッキング誤差を検出する方式のビデオディスクプレーヤーが知られているが、この方式ではトラッキング外れの大きさは再生された信号の振幅レベルから直接検出できるが、その外れの方法は再生された信号の振幅レベルからは直接判別できないから、それを検出するための手段が必要であり、そのため、記録トラックの長さ方向と直交な方向、即ち電極によるトレース方向と直交な方向に2個の電極を設け、トラッキング外れの方法によりこれら2個の電極から得られる信号のレベル差を生じるようにし、このとき、いずれの電極からの信号のレベルが高くなったか（或いは低くなったか）でトラッキング外れの方法を検出するようにした

方式のものが提案されている（このような方式の一例としては、例えば特開昭52-104907号公報に記載されたものがある）。

ところが、このようなトラッキング誤差検出方法では、2個の電極に対応して2系統の信号検出手段が必要となるため、構成が複雑であり、特に映像信号用の前置増幅器が2個用いられるため針電極を設けたピックアップ部の構成が複雑化し、大形化してしまふという欠点があつた。

本発明の目的は上記した従来技術の欠点を除き、前置増幅器を複数個使用しないでトラッキング誤差の検出を可能にし、ピックアップ部の構成を簡単かつ小形のものとすることができるトラッキング誤差検出装置を提供することにある。

この目的を達成するため、本発明は、2個の電極からの信号の取り出しを時分割で交互に行なうようにした点を特徴とする。

以下、本発明によるトラッキング誤差検出方法の実施例を図面の第1図ないし第3図について説明する。

第1図は本発明の第1の実施例で、1、1'、1''はビデオディスクに形成された記録トラック、2a、2bは第1と第2の信号検出用電極、3a、3bは共振器、4a、4bは包絡線検波器、5は高周波発振器、6は切換回路、7は切換信号発生器、8は前置増幅器、9は包絡線検波器、10は同期検波器、11はトラッキング誤差信号出力端子、12は映像信号出力端子である。

次に動作について説明する。

電極2a、2bは記録トラック1を形成している導電層との間に静電容量を有し、この静電容量が共振器3a、3bの共振容量の一部となつている。従つて切換回路6を介して発振器5からの高周波発振電圧が共振器3a、3bに供給されると、記録トラック1に記録されている信号に応じて高周波発振電圧が共振器3a、3bに共振されて包絡線検波器4a、4bに取り出される。このときの高周波発振電圧の高周波数としては、例えば900MHz程度のものが使用されている。

包絡線検波器4a、4bはこのAM変調された

高周波励磁電圧を供給し、その振幅変化分を取り出す。記録トラック1, 1', 1''にはFM変調したテレビジョン信号などが記録されているから、検波部4a, 4bの出力には、このFM変調された信号がそのまま得られることになる。

そこで、これら包絡線検波部4a, 4bの出力を前置増幅器8で所定のレベルに増幅し、出力端子12から映像処理回路(図示してない)に送れば画像再生を行なわせることができる。

また、前置増幅器8の出力は包絡線検波部9にも供給され、その振幅に比例した出力を得、同期検波部10で処理されてトラッキング誤差信号が出力端子11に得られる。

そこで、この出力端子11に得られる信号を電極2a, 2bが設けられているビックアップアームのトラッキング制御系に供給すれば、正しいトラッキングが得られることになる。

ところで、発振器5からの高周波励磁電圧は、切換回路8によつて、所定の切換周期で交互に共振器3aと3bに切換えて供給されている。そし

て、電極2a, 2bより記録トラック1から信号が検出されるのは、共振器3a, 3bに高周波励磁電圧が供給されたときだけである。

従つて、包絡線検波部4aと4bの出力には、電極1aと1bによつて記録トラック1から検出されたFM信号が交互に現われていることになり、その交互に現われる周期は切換信号発生回路7による切換信号の周期によつて決められていることになる。

そこで、前置増幅器8の出力を包絡線検波部9に入れてFM信号の振幅変化を跟らす信号を取り出し、同期検波部10により切換回路7からの切換信号によつて同期検波すれば、電極2aと2bで検出された信号の振幅レベルに応じた電圧を分離して検出することができることになる。そして、電極2aと2bから再生される信号の振幅レベルは、それぞれの電極のトラッキング状態に応じて反対方向に変化し、例えば、第1図で電極2a, 2bによるトラッキングが上方に外れたとすれば、電極2aは記録トラック1から外れるが電極2b

は記録トラック1とさらに重なるから、電極2aからの信号の振幅レベルは下り、電極2bからの信号の振幅レベルは上ることになる。

従つて、同期検波部11で電極2aと2bからの信号が分離されれば、これらの信号のレベル差によつてトラッキング誤差信号を得ることができ、トラッキング制御を行なうことができることになる。

そして、この本発明の実施例によれば、電極2aと2bからの信号の増幅を唯一個の前置増幅器8で行なうことができる上、電極2aと2bからの信号の切換えと取り出しを共振器3aと3bに対する高周波励磁電圧の切換えによつて行なっているから、電極2a, 2bから映像信号の出力端子12までの信号系には何らの切換手段をも設ける必要がなくなり、映像信号に対して無用の差を与える必要が全くないという利点がある。

第2図は本発明の他の実施例で、第1と第2の電極2a, 2bに加えて第3の電極2cを設け、トラッキング誤差信号の取り出しと映像信号の取

り出しを設立して行なうようにしたもので、3cは電極2cに対応して設けた共振器、4cは同じく包絡線検波部、8-1はトラッキング誤差信号専用の前置増幅器であり、その他は第1図の場合と同じである。

第3の電極2cに結合した共振器3cには高周波励磁部5からの高周波励磁電圧がそのまま供給されるから、電極2cによる記録トラック1からの信号の再生は連続的に行なわれ、出力端子12からはさらに短の少ない映像信号の取り出しが可能になる。

このとき、前置増幅器8-1はトラッキング制御による振幅レベルの変化だけを忠実に増幅できればよいから、比較的狭帯域のもので済むから、簡単な増幅器で構成することができる上、電極2a, 2bもトラッキング調整を振幅レベルの変化として検出するだけであるから、そのトレース方向の寸法を映像信号再生用の場合程小さくする必要がないので製造が簡単に行なえ、寿命も水くなるので、前置増幅器8-1や電極2cを与分に設

けたことによるコストアップは値かて済み、それとひきかえに確実な信号再生を行なわせることができる。

さらに、ビデオディスクに対するテレビジョン信号の記録が螺旋状記録方式の場合に、電極2a、2bに対する電極2cの配設距離を記録トラック1における1水平走査期間分の記録長さと同じく定めておけば、電極2a、2bから得られる信号と電極2cから得られる信号との間には1水平走査期間に相当した遅れを与えることができるから、ビデオディスクプレーヤに使用されるドロップアウトキャンセル回路などに必要な1H遅延信号を直接得ることができ、これらの回路に必要な1H遅延回路を不要にできるという利点を得られる。

第3図は本発明による他の実施例で、第1図に示した実施例における電極2a、2bをさらに記録トラック1の長さ方向に1水平走査期間に相当した距離だけ隔して配設したものである。

これにより電極2aと2bから再生された信号

間には1水平走査期間の時間差が生ずることになり、トラッキング誤差信号をこれらの電極2aと2bにより再生された信号の振幅レベルに応じて得ると共に、これらの電極2aと2bから1水平走査期間の時間差を有する映像信号を得ることができ、第2図に示した実施例の場合と同様にドロップアウトキャンセル回路などに必要な1H遅延回路を省略させることができる。

以上説明したように、本発明によれば、トラッキング誤差信号を得るために映像信号用の前置増幅器を複数個使用する必要がないから、ピンクアップ部の構成が単純化するという従来技術の欠点を除き、高品質の映像信号を再生すると共にトラッキング誤差信号を確実に得ることの出来るトラッキング誤差検出装置を提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

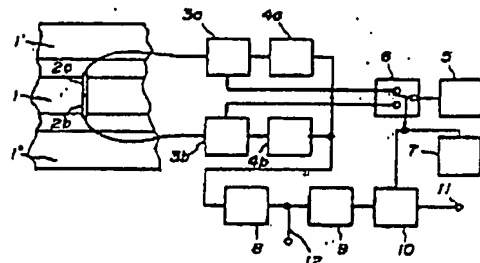
第1図は本発明によるトラッキング誤差検出装置の一実施例を示すブロック図、第2図は同じく本発明の他の実施例を示すブロック図、第3図は第1図に示した実施例の一変形例を示す電極配設

図である。

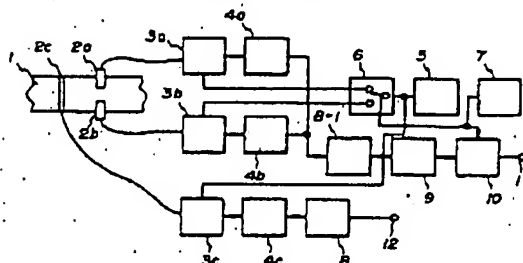
1…記録トラック、2a、2b、2c…電極、3a、3b、3c…共振器、4a、4b、4c…包絡線検波器、5…高周波発振器、6…切換回路、7…切換信号発生器、8…前置増幅器、9…包絡線検波器、10…同期検波器、11…トラッキング誤差信号出力端子、12…映像信号出力端子

代理人 弁理士 武 田 次 郎 (特 許 代 理 人)

第1図



第2図



第3図

